

HJ 引越情報 FAXサービス NO.423 (7月27日火曜日)

大手6社による寡占化傾向強まる。大手専門業者が堅調な伸び

引越社が16.6%増の258億円で5位にランクアップ 平成15年度引越売上高ランキング

カーゴニュースは7月22日付紙面で平成15年度引越売上高ランキングを発表した。これにHJ引越情報の既報データを加えて一部修正してまとめた＝別表。上位2社の日本通運、ヤマト運輸がそれぞれ減収したものの、その一方で、3位のアートコーポレーション以下、大手専門業者はいずれも堅調に売上を伸ばした。サカイ引越センターがその差2億円とアートコーポレーションに肉薄し、引越社グループは全国引越専門協同組合連合会をわずかに3300万円上回り6位から5位にランクアップした。引越社グループの急成長で上位6社による寡占化傾向が一段と強まった。前回のランキングでは10位以下の企業がほとんど減収していたが、今回は増収企業が増加しており、引越業界にもわずかながら明るさが見え始めたとみることができる。

平成15年度引越売上高ランキング (百万円、%)

上位6社の売上高合計は2278億7700万円で前年度比2.8% (62億2000万円) 増となり、前回の同0.5% (11億円) 増に比べ伸び率で2.3ポイント、金額で51億2000万円アップした。このうち減収した上位2社を除く4社の売上高合計は1150億3900万円で同8.5% (90億4300万円) 増となり、堅調ぶりがわかる。

11～15年度の上位6社の合計売上高の伸び率 (増収額) の推移をみると、11年度1.0% (20億7500万円)、12年度7.3% (146億8400万円)、13年度3.4% (74億2600万円)、14年度0.5% (11億円)、15年度2.8% (62億2000万円) となっており、大手6社による市場寡占化は着実に進みつつある。

目立つのは、引越社グループの急成長だ。15年度も16.6%と高い伸び率を維持。関東に進出した12年度からの伸び率は12年度18.9%、13年度20.2%、14年度17.5%、15年度16.6%と高い伸びを続けている。

今回のランキングを伸び率で

みると、15年度から引越事業への本格参入を明らかにした佐川引越センターが37.8%で最も高く、バンテック24.8%、山九18.1%、引越社16.6%、澁澤倉庫16.4%、名鉄運輸15.5%—の順となっている。

順位	社名	売上高	増減率	決算期
1	日本通運	69,250	▲3.5	16年3月期
2	ヤマト運輸(グループ)	43,588	▲0.5	16年3月期
3	アートコーポレーション	31,820	6.1	15年9月期
4	サカイ引越センター	31,612	5.8	16年3月期
5	引越社(グループ)	25,820	16.6	16年3月期
6	全国引越専門協同組合連合会	25,787	7.6	15年12月期
7	松本引越センター	7,120	-	15年6月期
8	0003アーク引越センター	5,996	6.7	16年2月期
9	山九	4,096	18.1	16年3月期
10	丸全昭和運輸	3,812	▲16.2	16年3月期
11	名鉄運輸	3,571	15.5	16年3月期
12	日立物流	3,549	▲8.6	16年3月期
13	西武運輸	3,500	▲14.0	16年3月期
14	東芝物流	3,381	3.9	16年3月期
15	西濃運輸	3,236	1.6	16年3月期
16	日新	2,714	7.8	16年3月期
17	バンテック	2,360	24.8	16年3月期
18	センコー(グループ)	2,300	横ばい	16年3月期
19	澁澤倉庫	2,084	16.4	16年3月期
20	佐川引越センター	1,861	37.8	16年3月期
21	ジェイアール東日本物流	1,350	▲11.8	16年3月期
22	トナミ運輸	1,348	▲15.4	16年3月期

※ アートコーポレーションのFC含む売上高は343億8800万円 (前期比5.7%増)。スポーツと物販事業を含む全売上高は401億600万円 (同5.4%増)。

※ ヤマト運輸、引越社、センコーはグループ全体の売上高。

※ 引越社の売上高は258億2072万円で百万円以下は切り捨て。

※ 松本引越センターは決算期変更のため売上高のみ掲載。

※ この一覧表はHJ引越情報のデータを加えて修正しています。

HJ 引越情報 FAXサービス NO.423 (7月27日火曜日)

シルバとユニグループの2強伸びる。大手各社とも増収転換

米国経済の回復効果、イラク派兵なども影響

米国・引越ランキング

アメリカのトラック業界誌、TT（トランスポート・トピックス）パブリッシング・グループがまとめた（カナダを含む）全米トラック業者の2004年版（2002～2003年）売上高トップ100社のランキングが発表された。その中から抜粋した引越業者（グループ連結）のランキングは別表の通り（引越部門以外の売上高も含む）。トップ2のSirva（シルバ）とUniGroup（ユニグループ）の強さは変わらないが、狭義の引越部門ではUniGroup（ユニグループ）がわずかながらSirva（シルバ）を上回っている。

前回の引越業者売上高ランキングではほとんどが2年連続で前年度比ダウンしていたが、今回は2強をはじめ増収に転じている。上位6社合計売上高は53億8700万ドルで前年度比4.9%増となった。アメリカ経済が回復してきた証拠でもあるが、イラク派兵など軍事関連の影響もあるとみられる。

総合ランキングでは、UPS（ユナイテッド・パーセル・サービス）が334億8500万ドル（前年度比7.1%増）でトップ、2位はフェデックスの247億1000万ドル（同10.0%増）で2強がやはり強い。

2004年版米国引越業者売上高ランキング（千ドル、増減率%）

引越	総合	社名	03 売上高	02 売上高	増減率
1	11 (11)	Sirva, Inc.(シルバ)	2,349,900	2,185,600	7.5
2	13 (20)	UniGroup Inc.(ユニグループ)	1,809,013	1,707,697	6.0
3	34 (32)	Atlas World Group(アトラスワールドグループ)	542,000	537,000	0.9
4	61 (50)	Graebel Cos.(グレーベルカンパニーズ)	303,443	335,000	▲ 9.4
5	82 (84)	The Bekins Co.(ビーキンス)	197,803	171,000	15.7
6	86 (74)	Suddath Cos.(サダスカンパニーズ)	185,000	200,000	▲7.5
		合計	5,387,159	5,136,297	4.9

※2004年版米国運送業者売上高ランキングから引越業者のみを抜粋。

※引越部門以外、また国際引越部門の売上高も含む。

※総合順位の()は前年度の順位。※前年度5位だったArpin Groupはランキング表に掲載されていない。

2004年版米国引越部門売上高ランキング（千ドル、増減率%）

順位	社名	03 売上高	02 売上高	増減率
1	UniGroup Inc.(ユニグループ)	1,611,391	1,537,545	4.8
	United Van Lines(ユナイテッドバンラインズ)	-	1,113,826	-
	Mayflower Transit(メイフラワートランジット)	-	374,886	-
2	Sirva, Inc.(シルバ)	1,602,900	1,544,400	3.7
	Allied Van Lines(アライドバンラインズ)	-	425,313	-
	northAmerican Van Lines(ノースアメリカンバンラインズ)	-	581,881	-
	Global Van Lines(グローバルバンラインズ)	-	-	-
3	Atlas World Group(アトラスワールドグループ)	542,000	537,000	0.9
4	Graebel Cos.(グレーベルカンパニーズ)	303,443	335,000	▲ 9.4
5	Bekins Worldwide(ビーキンスワールドワイド)	197,803	170,700	15.8
6	Suddath Cos.(サダスカンパニーズ)	185,000	200,000	▲7.5
	合計	4,442,527	4,324,645	2.7

※2004年版米国運送業者売上高ランキングから引越業者のみを抜粋。

※HOUSEHOLD GOODS(狭義の引越)部門の売上高ランキング。

60歳以上の顧客対象に新サービス「アートのシニアパック」

「暮らしの整理士」が引越の1カ月前に無料で訪問相談 アートコーポレーション

アートコーポレーション（本社・大阪府大東市、寺田千代乃社長）は7月26日から、60歳以上の顧客向けに引越前の無料相談を行う新サービス「アートのシニアパック」を全国で始めた。引越の約1カ月前に同社の熟練したスタッフ「暮らしの整理士」が顧客宅を訪問してプロの視点から引越の相談に乗る。必要な家財と不用品との選別、不用品の整理なども手伝う。

「暮らしの整理士」とは、同社の「エプロンサービスレディ」として顧客宅の掃除や整理・整頓、模様替えなどの“暮らしのお手伝い”業務を1年以上経験した社内資格取得者。新サービスでは、「暮らしの整理士」1名が引越前に顧客宅を1回訪問して引越の相談に乗ったり、具体的な相談内容についてアドバイスする。「必要なもの」と「不要なもの」の選別や不要品の整理なども行う。

家財の選別、処分を手伝うほか、必要なもののうち「普段の生活に必要なもの」と「大切だが当面の生活には必要ないもの」など、より細かく分けて整理する。

同社では、「お客様ごとに異なる“ものへのこだわり”を大切にし、“もの”だけでなく“こだわり”もいっしょに運びたい」としている。今後需要が高まるとみられるシニア層を対象にきめ細かなサービスの提供で顧客拡大を進めていく考え。

ローソンチェーンで「コンビニひっこし」全国展開

赤帽物流

赤帽グループの営業統括会社、赤帽物流（本社・東京都千代田区、池田昇社長）は今年5月1日から、大手コンビニチェーン「ローソン」の店舗を利用して、引越の受付や料金支払いができる「コンビニひっこし」をスタート。開始後3カ月が過ぎ、順調に需要開拓を進めている。

赤帽物流は、ローソンを通じて運転免許取得サービスを提供しているカーライフサポート（本社・東京都港区、皆川充社長）と提携し、ローソン店頭で置かれている小冊子「ローソンの運転免許」に添付した申込書から引越の受付ができるようにした。カーライフサポートが開設した「コンビニひっこし」のホームページからも申し込むことができる。

「コンビニひっこし」のサービス内容は、走行距離50km圏内の引越で、2万6000円（税込）の一律料金に設定。荷物量は軽トラック1台で運べる段ボール箱（大）36個分相当までに限定した。荷物量・距離・料金など、あらかじめサービス内容を定めることで、見積もり作業をなくし、追加料金の発生もなくなった。低コスト・低価格の設定で、学生や単身者向けの引越需要を開拓するのが狙い。

赤帽物流は昨年10月、全国赤帽軽自動車運送協同組合連合会（本部・東京都千代田区、小林則夫会長）の連合会営業本部が独立分離して設立。全国の赤帽グループのための営業統括会社として、①ロジスティクスの全体最適を目指す3PL（サードパーティー・ロジスティクス）②引越新商品の開発③介護サービス④コンサルタントなどの新規事業を進めている。

「コンビニひっこし」は、昨年10月からシステム開発を始めた。当初はコンビニ店員が受付に対応するが、11月からは、コンビニ側の店頭情報端末でも利用できるようにする予定。林事務所（本社・東京都渋谷区、林勝治社長）がコンサルティングを行っている。

単身者など小さな引越は赤帽グループが実際のサービスを行うが、それ以上の規模の引越についても大手トラックグループと提携して取り込んでいく。今後は、コンビニ以外の不動産業者や就職関連企業とも引越で提携していきたい考え。

■コンビニひっこしのホームページ <http://www.convini-hikkoshi.jp/>

■林事務所のホームページ <http://www.h-comnet.co.jp/>